

GRAND PRIX DIVONNE

Divonne, France, April 30-May 2, 1993

Vive la Bugatti! Vive la France!

report & photo = Jean-Paul Caron



実に28台も参加したGP Bugatti群。

地球を覆う長い不況、政治的不安と民族紛争などはまったく関係ないかのように、ブガッティの世界だけはますます盛況をきわめている。イタリア・カンボガリアーノに生まれた新しいブガッティ・アウトモビリーりの発展ぶりは驚くべきで、すでにロンドンと東京で盛大な新型EBの発表会が開かれた。

いっぽう古いフランス製(ある人々によっては本物の)ブガッティの方はどうだろう。1929年に英国のごく少数の熱心なオーナーによって生まれたブガッティ“動態保存”運動は、いまや全世界に飛び火した観がある。たとえばこの5月には、ディヴォーヌでフランス・ブガッティ・クラブ主催によるレースが開かれ、実に28台のGPモデルが“キャラコを引き裂くような”排気音を轟かせた。ジャンポール・キャロンのペンとカメラでその情景を伝えよう。

スイス国境にほど近い、風光明媚なディヴォーヌは、ブガッティストにとって理想的な場所にある。ジュラ山脈に近いので、道路は狭く屈折とアップダウンに富む。これこそブガッティストがなにより好むところだ。

昨年最初のイベントを成功裡に終えた地元の主催者は、今年はブガッティだけでなく、フェラーリも招待した。それで、スイスに隠れ住む多くのブガッティとフェラーリは“黄金づくりの牢屋”——スイスでは速度制限が低く、レースは厳しく禁じられている——から大喜びで飛び出してきた。ブガッティに話を限れば、実に28台ものGPモデルがグリッドに並んだのだ。しかも信じ難いことに、英国ナンバーは1台もなかった。フランス、スイス、それにベルギーとオランダからの出場車だった。

これだけでもディヴォーヌへ観戦にゆくだけの価値は充分にあった。しかし筆者を含めて、ヨーロッパのブガッティストたちすべてが、長年待ち望んでいた、1台のT35Bがついにこの日、白日の





この日はフェラーリも招待された。中央の青い4シーターはT30で、ブガッティとして初めての8気筒2車。



ブガッティのコーナリング・スピードはロール角よりもぶら下がったクランクの振れ方で想像できる。これはかなり頑張っている。

これも歴史的な35Bで1929年モナコGPにウィリアムズが優勝したワークスカー。エスキューディエールという現在のオーナーが、戦後スクラップ値段の120フラン（現在のレートなら¥3000!）で買い取り、そのまま所有している。見た目は酷いが100%オリジナルで音も他の35Bとは違うという。



細いタイヤは雨でも案外滑らない。しかしコーナーでは自分の撥ね上げた水をまともに被る。この35Bでモーリス・トランティニアンが昔レースしていた。



下に現れたのだ。それは「ムシュー・エスキューディエールの車」と呼ばれているT35Bである。この車の所有者は72歳になる南仏のスクラップ・ディーラーで、38年まえ、「垢にまみれた」1台のブガッティを、たった120フランで手に入れた。それはレースから引退したばかりの、本物のT35Bであることがのちに明らかになった。

ディヴォーヌに集結した28台のGPブガッティのなかで、このムシュー・エスキューディエールのT35Bは異彩を放っていた。まず、エンジンの音が特別で、「危険に満ちて」いた。ボディの塗装そのものがまた多くを語っていた。現在の塗色はくすんだグレーだが、その下にはライトブルー、グリーン、それにレッドの衣装が重なっていた。この生きている幽霊には、特別な雰囲気漂う。それは元ワークスドライバー、ウィリアムズの手で、1929年のモナコGPに優勝した車そのものである。

ムシュー・エスキューディエールの手に渡ってからは、たった一度しか公開の場では走ったことがない。それはモナコGPの50周年記念イベントで、ドライバーはルネ・ドレフュスだった。彼自身はこの同じ車を操縦して、1930年のディエップGPに優勝している。ドライバーの国籍などに応じて、異なったペイントを刷毛塗りしたことを除けば、このT35Bはまったくオリジナルで、新車から現在までなんら手を加えたことがないという。

オーナーのムシュー・エスキューディエール本人も、古びた彼のブガッティに相応しい風貌といでたちだった。彼はよほど強い意志の持ち主なのだろう。これまで無数の富裕なブガッティ・コレクターや友人からの誘惑を断り続けてきたのだから、とにかくこの歴史的なブガッティは、今後も彼の家に止まることは確かである。すでに彼は、この車を息子に譲ったからである。

この日出場したブガッティのなかには、SCG読者にもお馴染みの参加者が何人もいた。レトロモビルの主催者であるマーク・ニコロジ、その友人のメルシオンとシャンボンなどだ。ニコロジたちはシシリー島で行われたレースに出て、その足で陸路走ってここディヴォーヌへやって来た。シャンボンのT35Bも歴史的な車のひとつだ。やはりレーシング・ドライバーだったモーリス・トランティニアンの兄弟が、第二次大戦直前のピカルディーGPでクラッシュし、死亡したのはこの車だったのだ。それ以来シャンボンが発掘して買い取るまで、同車はそのまま人知れず納屋に仕舞い込まれたままだった。

マーク・ニコロジと彼の仲間たちの走行距離を記録すれば、何ページもの紙が一杯になるだろう。GPブガッティは信頼性が低いなんて、いったい誰が言ったんだろう？